

新型コロナウイルス

中国発の新型コロナウイルスが世界中を席卷し、各国で目に見えないウイルスとの戦いが繰り広げられています。そうした中で各国、各組織の危機管理の違いが浮き彫りになっています。中国人留学生がいる本学では1月末から教職員をはじめ全学生に感染予防について注意喚起をするとともに中国人留学生に対しては春節期間中も帰国しないよう促してきました。2月に入ると危機管理対策本部を立ち上げ、感染予防に関する情報共有とともに想定される事案ごとに実施の有無や行動基準などを決めて予防に取り組んできました。

ところが2月25日に中国人留学生から「中国の親から日本の対応策は生ぬるくて心配だから中国に帰って来るように言われました」と帰国相談が相次ぎました。政府が街の封鎖など徹底した対応をとる中国に比べて日本のクルーズ船対応や自粛要請主体の対策に「日本は大丈夫なのか」と心配が広がっていることが分かりました。

我々の心の中に国の方針はどうかとか、他大学はどうしているかなど指示待ち横並びの意識がなかったか、また「昔だったらちょっと質の悪い風邪くらいのもの、そのうち収束する」と安易に考えていなかったか考え直すきっかけになりました。

日本では東日本大震災後、BCP(事業継続計画)が再認識され大規模自然災害などへの対応策はかなり綿密に作られるようになりました。ただ姿が見えないウイルスが一斉に世界に広がりサプライチェーンを分断し経済活動に大きな影響を与えるということは全く想定していませんでした。今回のような事案にはタイムリーに大胆な対策を実施するトップダウンの危機管理と手洗い、マスク、大勢の人がいるところに行かない等のボトムアップ対策とを連動させていかに社会への影響を最小限にするかという視点が問われています。大学においてもこのことをしっかり胸に刻んで危機管理に当たるつもりです。

2021年春に向けた就職活動

新型コロナウイルスの感染予防対策で今月から始まる予定だった2021年3月卒業予定の学生に対する合同企業説明会が殆ど中止になってしまいました。就活のスタートラインで号砲を待っていた諸君は出鼻をくじかれるとともに、どのように行動して企業情報を取ればよいか悩んでいることと思います。

リクルートワークス研究所の調査によると2020年3月の大卒・大学院卒の有効求人倍率は1.83倍と史上二番目の売り手市場だったそうです。ただ従業員規模別に詳しく見ると従業員規模300人未満の中小企業は8.62倍ですが5,000人以上の会社は0.42倍となっていて、大企業は相変わらず狭き門になっている事実があります。その大企業も安泰ではありません。かつて優良企業と言われた家電業界大手もグローバル化の中で多くの分野から撤退し、安定していると思われていた銀行もゼロ金利政策などで大規模なリストラを発表しました。さらに第四次産業革命の進展で10年後には今ある仕事の多くが人工知能やロボットに代替えされるとも言われています。

そのような中、地元の小さな企業でもグローバルニッチトップとして景気に左右されず生き残っている会社もあります。企業合同説明会というスタートの号砲が鳴らない中、受け身ではなく「何をしたいのか」、「地元で就職するのか」など少し時間をかけて考え、方向性を持って行動を起こすことが重要です。言い換えれば規模の大小や有名企業かどうかで仕事を選ぶのではなく、どこでどんな働き方をしたいのか自分を中心に考えるということです。

コロナウイルス騒ぎで先が見えない中ですが大学では学科ごとに小規模な企業説明会を順次開催しています。早速ギアチェンジして、機会を逃さず行動を起こしてください。そして分からないことは一人で悩まずキャリアセンターや身近な教職員に相談してください。